

木材需要の関連因子の動向等について

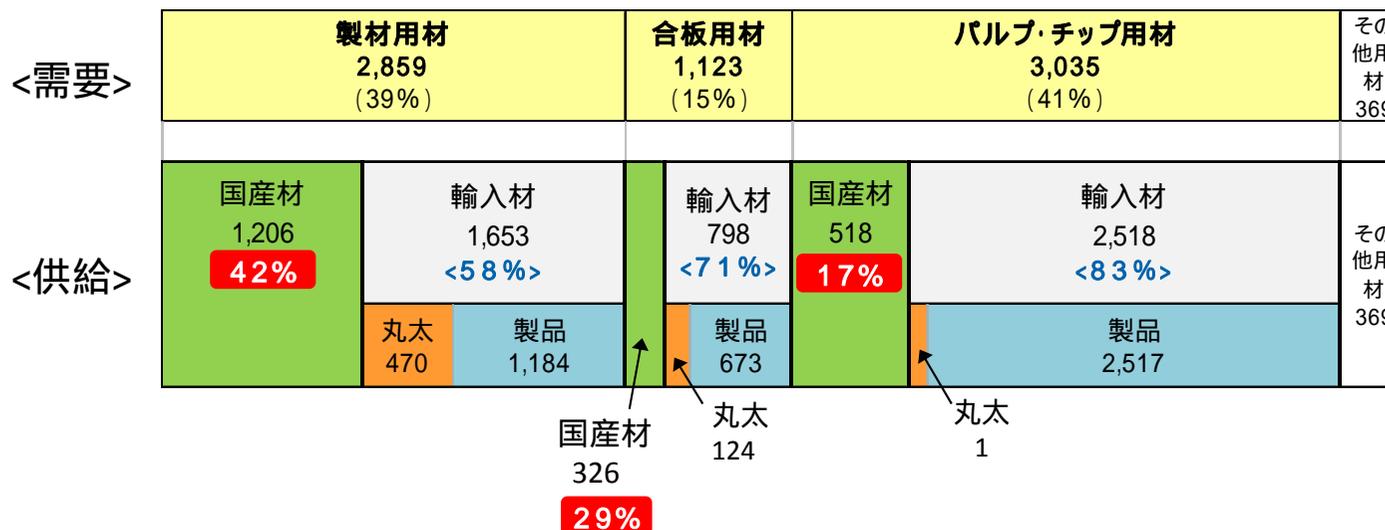
平成27年 9 月
林野庁

木材の需給構造について

- 木材需要量は長期的に減少傾向にあるものの、国産材供給量の増加を背景に、木材自給率は平成17年以降上昇傾向で推移し、平成25年には29%。
- 平成25年の木材需要量(用材)は7,387万m³で、その内訳は製材用材が39%、合板用材が15%、パルプ・チップ用材が41%を占める構造。
- 最終用途別では、建築用・製紙用がそれぞれ総需要量の約4割ずつを占め、中でも建築用は国産材の最大需要先。

■ 木材の需給構造（平成25年）

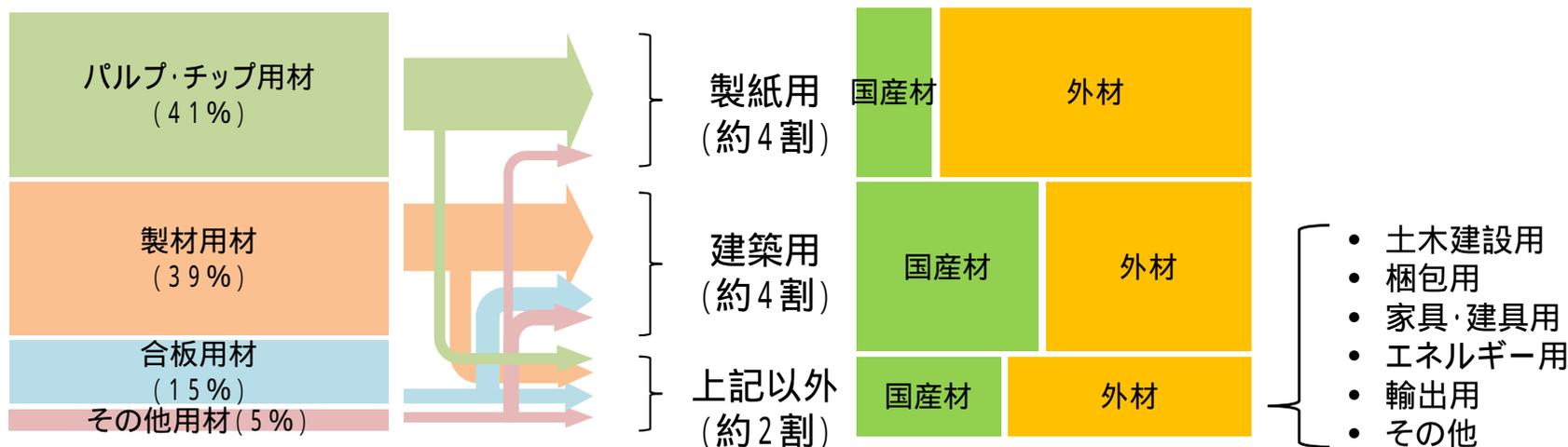
(単位:万m³)



合計 7,387万m³

木材自給率 **29%**

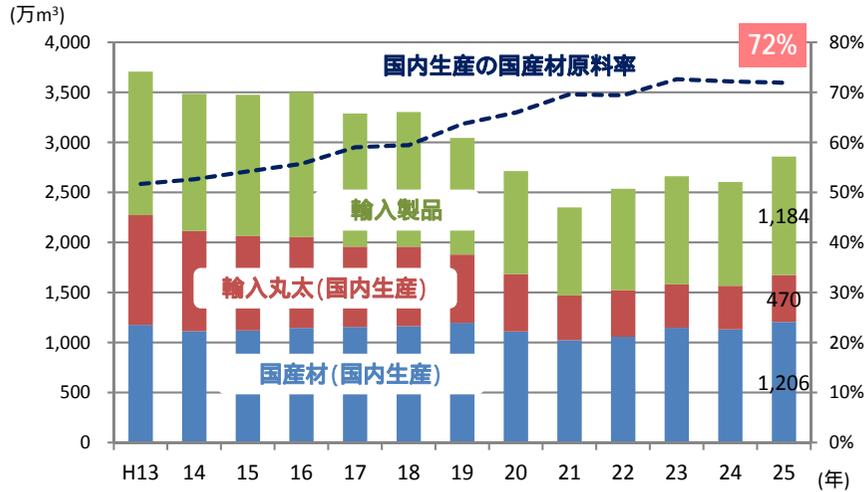
■ 最終用途別の需要構造（推計）



供給量の推移と国産材原料率

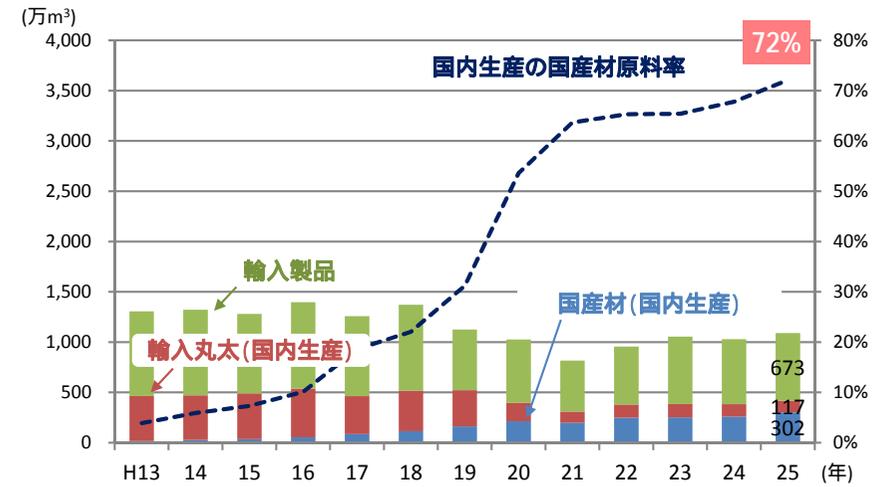
- 国内の製材工場、合板工場においては原料の国産材化が相当程度進展し、原料に占める国産材の割合は7割超。
- 集成材製品は国内生産が65%を占めるが、このうち国産材の原料率は24%に留まるところ。
- パルプ・チップ用材の大部分は輸入パルプ、輸入チップによって賅われており、国産材の割合は低位。

■ 製材用材の供給量の推移



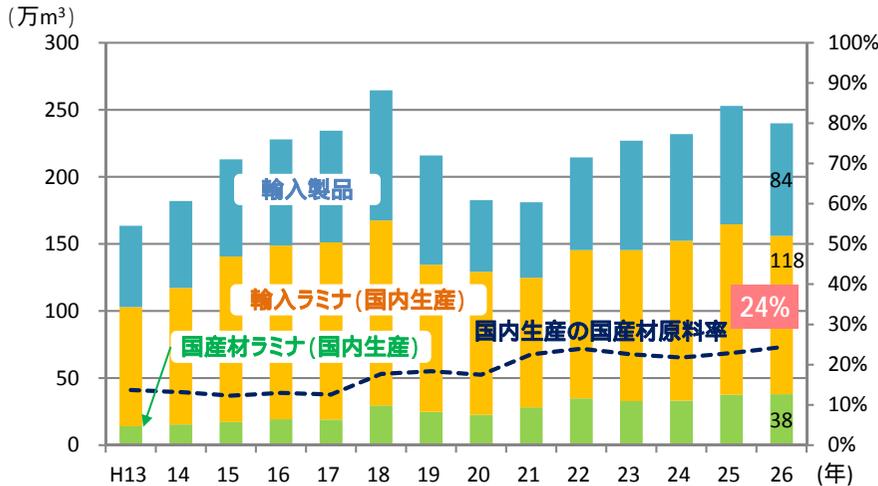
資料: 林野庁「木材需給表」 注: 素材(丸太)換算値

■ 合板用材の供給量の推移



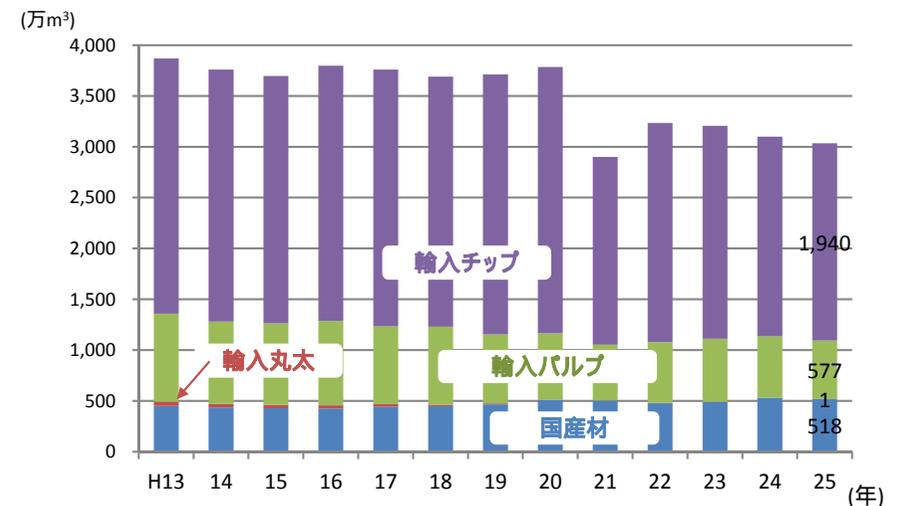
資料: 林野庁「木材需給表」 注: 素材(丸太)換算値

■ 集成材(製品)の供給量の推移



資料: 財務省「貿易統計」、日本集成材工業協同組合調べ

■ パルプ・チップ用材の供給量の推移



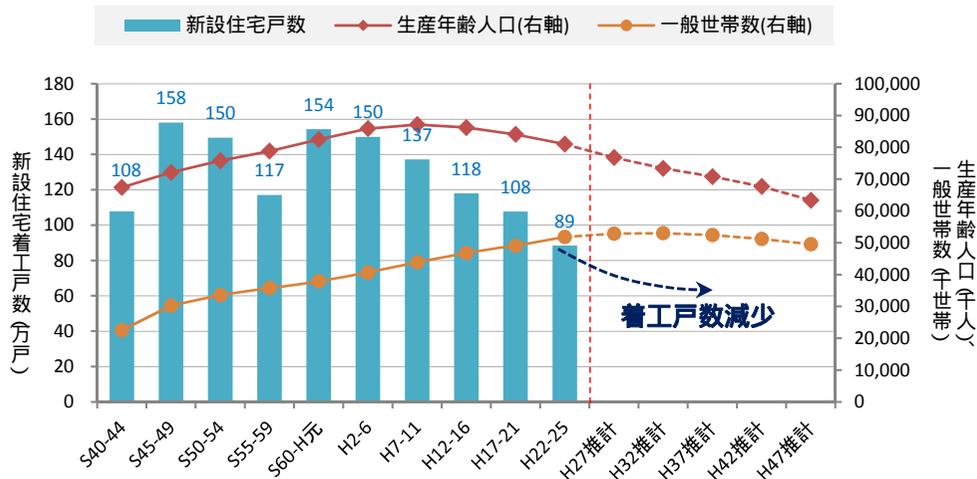
資料: 林野庁「木材需給表」 注: 素材(丸太)換算値

木材需要の関連因子

- 人口減少社会にある中、生産年齢人口・世帯数はともに減少し、中長期的に住宅需要は減少の予測。
- 新設住宅着工戸数のうち木造住宅の割合は、近年、過半数を超える水準で推移。木造住宅の約3/4は在来軸組工法によるもの。
- 非住宅建築物(着工床面積)の大半は鉄骨造・鉄筋コンクリート造を中心とした非木造構造で、木造率は7%前後と低位で推移。

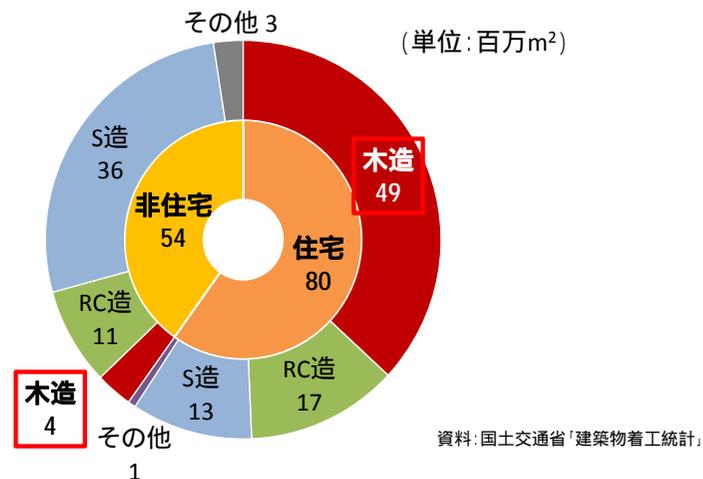
建築

■ 新設住宅着工戸数と人口・世帯の動態

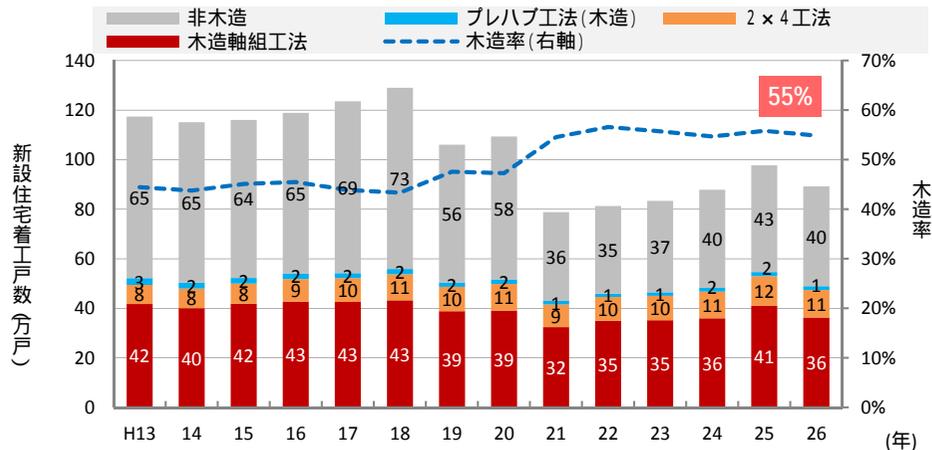


資料:国土交通省「建築物着工統計」、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」、「日本の世帯数の将来推計(平成25年1月推計)」

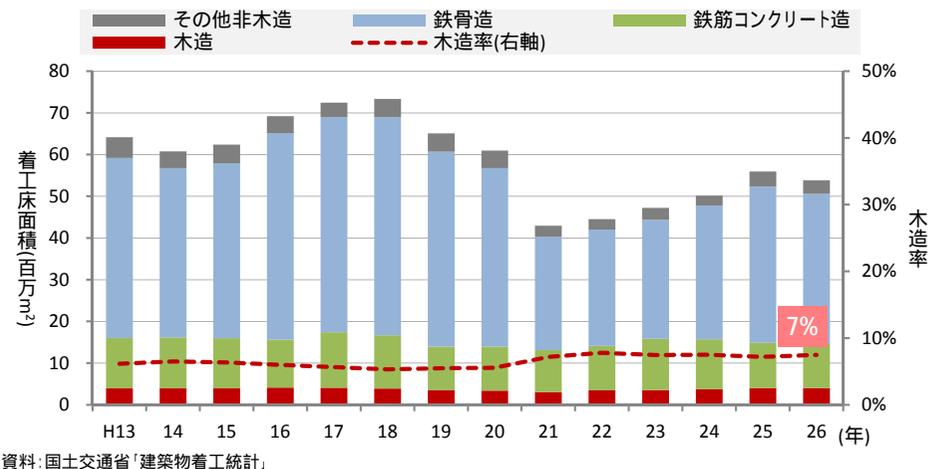
■ 用途別・構造別の着工床面積(平成26年)



■ 新設住宅着工戸数と木造率



■ 非住宅建築物の着工床面積(構造別)と木造率

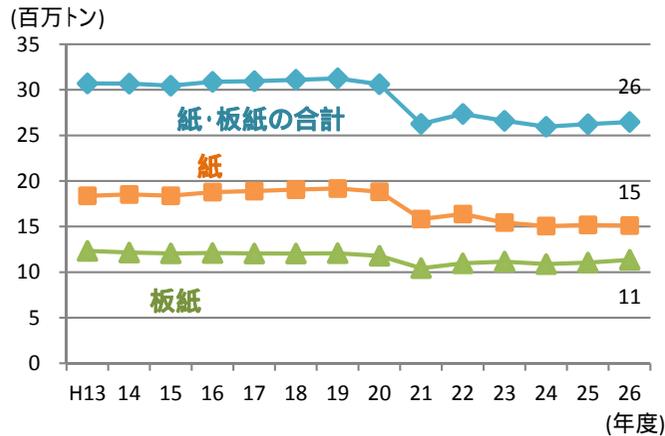


木材需要の関連因子

- 紙類の生産量、土木分野への投資額、国内貨物輸送量は、いずれも長期的には減少傾向にあるものの、近年は横ばいで推移。
- 木質バイオマスのエネルギー利用量は、木質バイオマスを利用するボイラーや発電施設の増加を受け、近年大幅に増加。
- 木材輸出額についても、丸太を中心に増加。

製紙

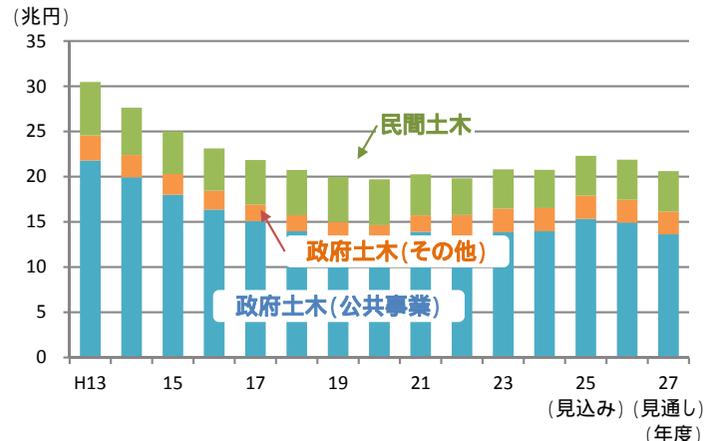
■ 紙・板紙の生産量の推移



資料: 経済産業省「生産動態統計年報」

土木

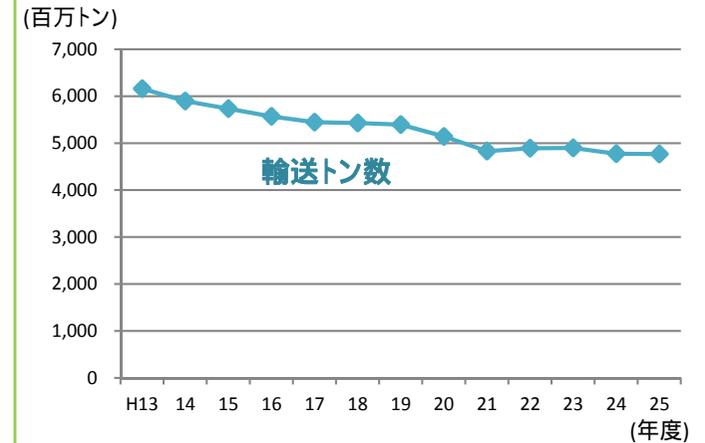
■ 土木投資額(名目値)の推移



資料: 国土交通省「建設投資見通し」、建築経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見通し」

梱包

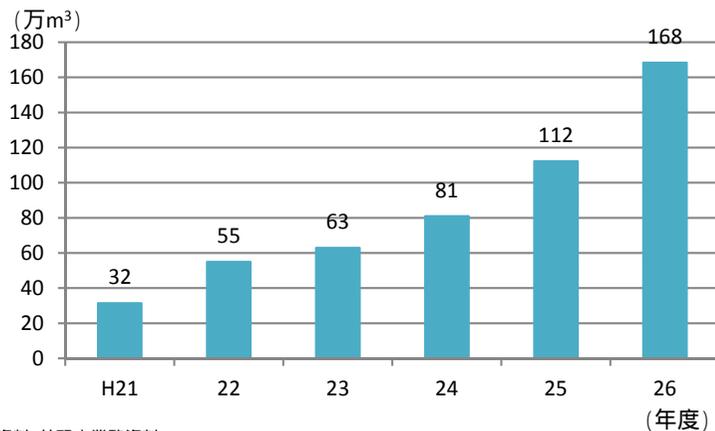
■ 国内貨物輸送量の推移



資料: 国土交通省「交通関係統計資料集」

エネルギー

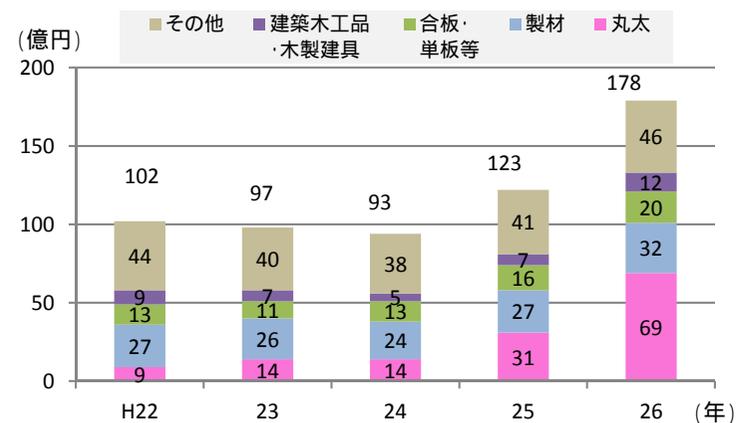
■ 木質バイオマス(間伐材等由来)のエネルギー利用量の推移



資料: 林野庁業務資料

輸出

■ 木材輸出額の推移



資料: 財務省「貿易統計」